

2022年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ(JA米)

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

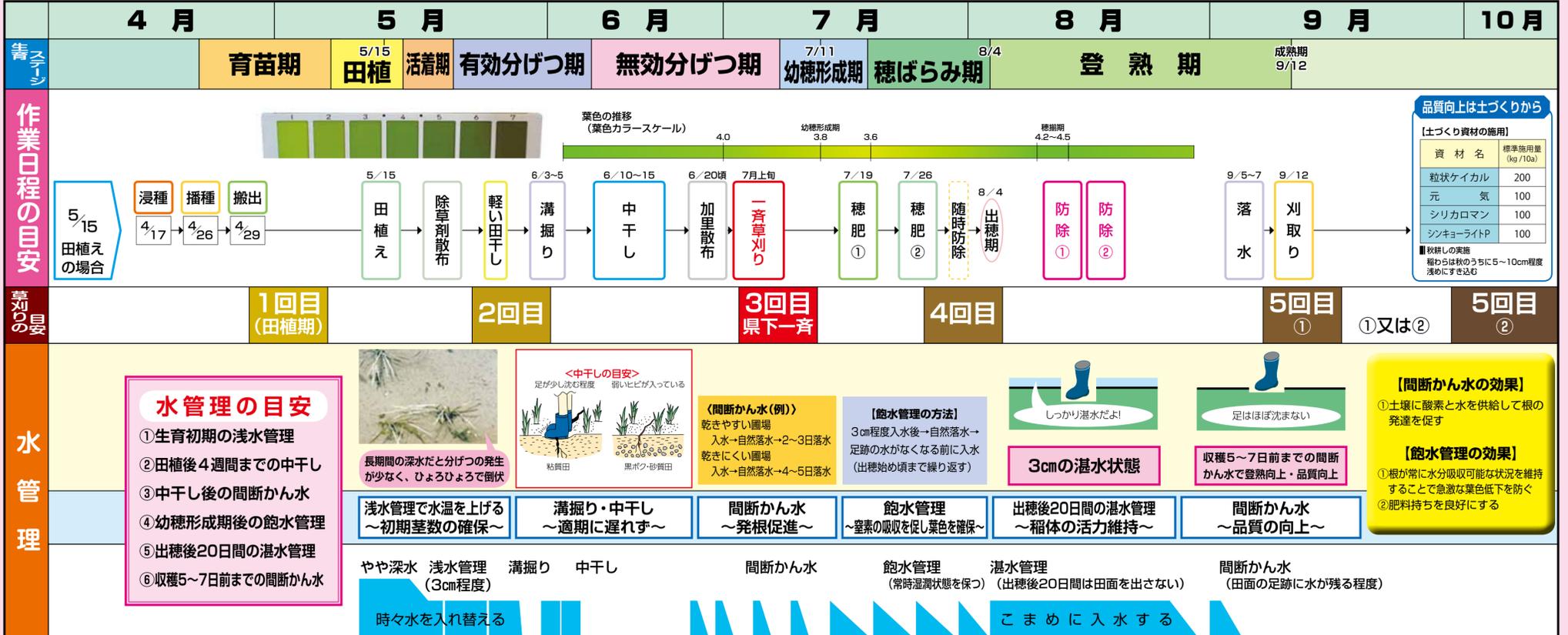
アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
m ² 当たり穂数(本)	400
一穂粒数(粒)	70
m ² 当たり籾数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5

高品質なアルプス米につなげる6つのポイント

- 土づくりの徹底
- 5/15を中心とした田植えと70株植の推進
- 溝掘りと田植後4週間までの中干し
- 適期に適正な防除で病虫害を防止
- 生育時期に応じた水管理の徹底
- 適期収穫



水管理

水管理の目安

- ①生育初期の浅水管理
- ②田植後4週間までの中干し
- ③中干し後の間断かん水
- ④幼穂形成期後の飽水管理
- ⑤出穂後20日間の湛水管理
- ⑥収穫5~7日前までの間断かん水

水管理の目安

- ①生育初期の浅水管理: 浅水管理で水温を上げる ~ 初期茎数の確保 ~
- ②田植後4週間までの中干し: 溝掘り・中干し ~ 適期に遅れず ~
- ③中干し後の間断かん水: 間断かん水 ~ 発根促進 ~
- ④幼穂形成期後の飽水管理: 飽水管理 ~ 窒素の吸収を促し葉色を確保 ~
- ⑤出穂後20日間の湛水管理: 出穂後20日間の湛水管理 ~ 稲体の活力維持 ~
- ⑥収穫5~7日前までの間断かん水: 間断かん水 ~ 品質の向上 ~

水管理の目安

- 浅水管理 (3cm程度): やや深水 浅水管理 (3cm程度) 時々水を入れ替える
- 溝掘り・中干し: 溝掘り 中干し
- 間断かん水: 間断かん水
- 飽水管理 (常時湛水状態を保つ): 飽水管理 (常時湛水状態を保つ)
- 湛水管理 (出穂後20日間は田面を出さない): 湛水管理 (出穂後20日間は田面を出さない)
- 間断かん水 (田面の足跡に水が残る程度): 間断かん水 (田面の足跡に水が残る程度)

水管理の目安

- 3cmの湛水状態: しっかり湛水だよ!
- 足はほぼ沈まない: 収穫5~7日前までの間断かん水で登熟向上・品質向上

【間断かん水の効果】
①土壌に酸素と水を供給して根の発達を促す
【飽水管理の効果】
①根が常に水分吸収可能な状況を維持することで急激な葉色低下を防ぐ
②肥料持ちを良好にする

管理のポイント

- 土づくり**: 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。土づくり資材や堆肥を施用する。
- 適正な乾燥調製**: 19mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。水分14.5~15.0%に仕上げる。
- 適期収穫**: 初黄化率85~90%頃に刈取る。高温年は80%から。
- 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。**
- フェーン時はあらかじめ入水する。**
- 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水を行う。**
- 基本防除2回の徹底**: 1回目は穂揃期、2回目は穂肥期。
- 出穂後20日間の湛水管理**
- 適正な穂肥**: 幼穂形成期から飽水管理。草刈りを終える。7月上旬までに畦畔や雑草地の草刈りを終える。
- 草刈りの徹底**: 確認してから! 必ず幼穂長1.5cmを1回目穂肥は
- 中干しは適期に開始**: 強すぎる中干しに注意する。田植後4週間までに遅れずに開始する。
- 溝掘りは確実に**: 5mに1本を目安に溝を掘る。活着後は、浅水管理をする。植付深さは3cm。植付本数は株当たり3~4本。栽植密度は坪当たり70株を確保する。草箱施肥による防除を実施する。基肥は基準量を施用する。
- 田植後は5月15日を中心に**: 搬出直後から換気の徹底。田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 健苗育成**: 代かきは、均等に努め、練りすぎに注意する。ゆっくりと耕起し、作土深を15cm以上確保する。
- 耕起・代かき**: 確実に施用する。秋施用ができなかった場合は、土づくり資材を

4月25日を中心とした播種

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月25日を中心とする。
○育苗日数は19日以内を目安とし、老化苗の発生を防止する。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/8頃	4/19頃	5/10	8/1頃
4/17頃	4/26頃	5/15	8/4頃
4/25頃	5/3頃	5/20	8/7頃

育苗日数が19日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は 70株/坪

適期中干し開始・適度な中干し実施

○田植後1か月(8葉期頃)は最も根が伸びる時期です。この時期に中干しをすることで根の伸長を促進します。
○中干しの効果を高めるため中干しの前には溝掘りを確実に実施しましょう

適期中干し

- ・葉が直立
- ・茎が太い
- ・根が多い

中干し未実施

- ・下葉が枯れる
- ・茎が細い
- ・根が少ない

中干しの有無による稲の姿

乗用管理機での溝掘り

適期で適正な防除で被害を防止!!

病害虫防除体系

【育苗基本防除】 苗箱薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ルーチンアトスピノ箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	白葉枯病、もみ枯病、イネネズミ、イネドクモシ、ウンカ類、ツマグロヨコバエ、イネヒメハモグリバエ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、いもち病
ブイゲットバディート粒剤	50g/箱	緑化期~移植当日	いもち病、白葉枯病、もみ枯病、イネネズミ、イネドクモシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバエ、イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イナゴ類
エパーゴルフワイド箱粒剤	50g/箱	播種時(覆土前)~移植当日	穂枯れ(こま葉枯病)、白葉枯病、内穎病、イネドクモシ、イネネズミ、ウンカ類、ツマグロヨコバエ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、いもち病、紋枯病

※各薬剤とも、使用時期別に、上記以外の対象病害虫の登録があります。

【本田基本防除】 粉剤、液剤体系

防除時期	臨時防除		基本防除	
	出穂10日前頃	出穂後(臨時)	穂揃期	傾穂期
粉剤	バリダシン粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	バリダゾール粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	ラプサイドキラップ粉剤 DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤 DL 3kg/10a (収穫7日前まで)
液剤	バリダシン液剤 5,000倍 (収穫14日前まで)	バリダシン液剤 5,000倍 (収穫14日前まで) + M.R. ジョーカー-EW 2,000倍 (収穫14日前まで)	ラプサイドフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで) + キラップフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤 10,000倍 (収穫7日前まで)
対象病害虫	紋枯病	ウンカ類、ツマグロヨコバエ、カメムシ類、紋枯病	いもち病、カメムシ類、ウンカ類	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバエ

除草剤散布は遅れずに

雑草の発生が少ない圃場：一発処理

薬剤名	使用時期
カチボシ・1キロ粒剤51・Lジャンボ	移植時~ノビエ2.5葉期
アピログロウMX・1キロ粒剤・ジャンボ	移植後3~12日~ノビエ2.5葉期
エンペラー・1キロ粒剤・豆つぶ250	1キロ粒剤: 移植時~ノビエ3.0葉期 豆つぶ250: 移植直後~ノビエ3.0葉期

雑草が残った場合

ノビエが残った場合
クリンチャー 1キロ粒剤

使用時期: 1kg/10a 施用 豆つぶ250 施用 移植後7日~ノビエ4.0葉期
1.5kg/10a 施用 移植後25日~ノビエ5.0葉期

雑草の発生が多い圃場：体系処理

体系	薬剤名	使用時期
体系①: ノビエ対策	マーシット・1キロ粒剤	移植後3~5日~ノビエ1.0葉期
体系②: ホタルイ対策	ピラクロン・1キロ粒剤	移植時同時使用
体系③: 初期剤+中期剤	ピラクロン・1キロ粒剤	移植時同時使用
	トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日~ノビエ5.0葉期
	広葉雑草が残った場合 パサグラン粒剤	移植後15~55日
	ノビエ・広葉雑草 どちらにも効果あり トドメバSMF乳剤	移植後15日~ノビエ6.0葉期
	カチボシ・1キロ粒剤51・Lジャンボ	マーシット散布後7~12日に施用~ノビエ2.5葉期
	エンペラー・1キロ粒剤・豆つぶ250	ピラクロン散布後14日以内
	いずれか1剤	ワイドショット・1キロ粒剤: 移植後15日~ノビエ4.0葉期 サンパンチ・1キロ粒剤: 移植後15~30日~ノビエ3.0葉期
	テッケン・1キロ粒剤・ジャンボ	移植後15日~ノビエ4.0葉期 中干し後に使用

※赤字の薬剤は令和4年度新規採用薬剤

土壌に応じた適正な施肥量

コシヒカリの基肥施用基準 生育量を確保するために、基肥は基準量を確認して施用する。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施肥体系(基肥+穂肥2回)	
	<標準タイプ>	<省カタイプ>	基肥	穂肥
砂壤土 壤土	Jコート コシヒカリ1号	35	32	10 13
半湿田 黒ボク土	Jコート コシヒカリ1号	41	25	10 12
粘質土	Jコート コシヒカリ2号	35	23	10 10
	Jコート コシヒカリ2号	27	25	10 10

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!